



Living My Dream Life

in ふじのくに

ここはみんなが
自分らしく暮らせる場所。

一般社団法人 エコティかわね
事務局員

まるのひろか

丸野宏夏さん

1992年鹿児島県生まれ。大学在学中に休学し、NPO法人・地球緑化センターの「緑のふるさと協力隊」に参加、川根本町で1年間暮らす。大学卒業後、鹿児島県屋久島町で就職するが、「協力隊の枠を越えて活動したい」という思いに駆られて移住を決意。現在（一社）エコティかわねに勤務し、事務局員として交流人口の獲得に向け尽力している。趣味はピアノ演奏と読書。



エコティかわねでは自然体験プログラムをはじめ、移住相談や環境活動の推進なども行っている。



川根本町の祭で伝統芸能に参加する丸野さん（中央）。地域に伝わる数多くの伝統芸能や民話・民俗にも心を奪われたという。

取材協力：一般社団法人 エコティかわね 静岡県榛原郡川根本町桑野山424-6
電話：0547-58-7000 <http://kawanehon-eco.com/>

「川根本町の魅力ですか？一言では言えません。自然も人も素敵なんです」。笑顔でそう答える丸野宏夏さんは、鹿児島県から川根本町へ移住し、（一社）エコティかわねで主に自然体験プログラムの広報活動や現場でのサポートをしている。

丸野さんは読書好きの物静かな少女だった。大学では人文学部に所属していたが、進路に悩んでいた時に「緑のふるさと協力隊」を知り、参加。1年休学して縁のない川根本町で暮らすことになった。

滞在中は農業や地域行事などの手伝いを通じて川根本町の住民と密に触れ合った。「町には農業、林業、工芸、音楽、料理などのスペシャリストが大勢いて、それぞれが想いを持ってしなやかに活動しているように思います。たくさんのことを学ばせていただき、あっという間の1年でした」と振り返る。

その後、鹿児島に戻り大学を卒業して就職するが、「やっぱり川根で暮らしたい、川根本町に恩返しをしたい」という思いが日に日に募り、川根本町に“帰る”ことを決意した。

「ここには魅力がたくさんあります。お茶、SL、お祭り、温泉など挙げたらキリがありません。でも一番は人。周りの移住者を見ても、みんな自分らしい暮らしを楽しんでいるように思います」。

ヨソモノの視点も交えて川根本町の魅力を発信する丸野さんは、地域の活性化に貢献しているが、自身も毎日を楽しんでいる。その充実ぶりは丸野さんの快活な笑顔に表れている。